

Mr. Bassman (ベースマン列伝) vol.74

ジャズにおいてベース弾きとは、縁の下の力持ち、水先案内人といったやや日陰の存在。おまけに、ウッドベースなら持ち運びも大変……。だが、黙々とベースをウォーキングさせ、バンドをスイングさせることに魂を注ぐベースマンが、一度化けの皮を剥くとももの凄い名演・名盤が生まれるのだ。このコーナーでは、そんなジャズ・ベースマンの偉業を称えるとともに、ジャズ・ベースの素晴らしさを伝えていきたい。

Lee Smith【リー・スミス】

Profile



2011 L. DAVID HINTON PHOTOGRAPHY

米国ペンシルベニア州フィラデルフィア生まれ。父レオポルド・スミス、母アン・スミスの末っ子として生まれる。最初にトランペットを学び、オーヴァーブルック・ハイスクール在学中に初めてエレクトリック・ベースを手に入れ、独学で学び始める。在学中から演奏を始め、タイム・キーパーズと呼ばれるグループで演奏。その後、フィラデルフィアを拠点に、デルフォニックス、ブルー・マジック、ブレンダ&ザ・タビュレーションズ、ビリー・ポール等をはじめ、R&Bのアーティスト達の録音に参加。77年の夏にモンゴ・サンタマリアのグループに参加。その後、ニューヨークに移り、モンゴと5年間仕事を続ける。モンゴのグループ脱退後、フィラデルフィアに戻る。その後、ミルトン・シーリーとトランプ・ブラザ・カジノのグランドオープンで演奏し、83年から89年までアトランティック・シティ・サーキットで演奏。86年頃にドラマーのウィルビー・フレッチャーから最初のアコースティック・ベースを購入し、独学で学ぶ。キャブ・キャロウェイ、ライオネル・ハンブトン、ベニー・ゴルソン、ディジー・ガレスピー等、数多くの偉大なアーティストと共演。また、トゥルーディー・ピッツと約10年間活動。テル・スタッフオード指揮のフィラデルフィア・ジャズ・オーケストラとも共演。現在も精力的に演奏活動を行っている。

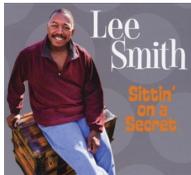
ジャンルを超えて活躍し続けるフィラデルフィア出身の名ベースマン

フィラデルフィア出身のリー・スミスには3人の息子がいる。リー・W・スミス・ジュニア、トミー・ピンケット、そして、同じベーシストとして活躍しているクリスチャン・マクブライドだ。本誌前号「Vol.73」のJazz Interviewにはクリスチャンが登場してくれ、父リー・スミスについて語ってくれている。プロとして約50年演奏し続け、初期の頃はソウルやリズム&ブルースのグループで演奏し、その後はジャズ・ミュージシャンとも共演。1980年代の中頃まではエレクトリック・ベースを弾き、その後はほぼアコースティック・ベースを弾いている。

中でも、1977年から5年間に在籍したモンゴ・サンタマリアのグループでのキャリアは目を見張り、アルバム「ダーン」は見事グラミー賞に輝いている。クリスチャン曰く、「私がエレクトリック・ベースに興味を持ち始めたのは、父がモンゴのグループで演奏しているのを見ていたからなんだ」。クリスチャンにとって最愛の父であり、尊敬するベースマンでもあるリー・スミスは、現在も演奏活動を続け、個人レッスンも行っている。

LS's Great Albums

リーダー作品は3作発表されており、ブレンダ&サ・タビュレーションズやデルフォニックス、ブルー・マジック、モンゴ・サンタマリア等のアルバムでも名演を聴かせている。



シッティン・オン・ア・シークレット リー・スミス

(Vectordisc Records [Import LP])

2012年に発表されたリー・スミスの記念すべきデビュー・アルバム。アンソニー・ウォンジーやティム・ワーフィールド等が参加。全8曲収録。



マイ・カインド・オブ・ブルース リー・スミス

(Vectordisc Records [Import CD])

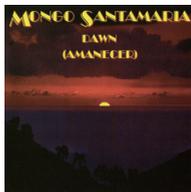
2015年にリリースされたリー・スミスのセカンド・アルバム。息子のクリスチャン・マクブライドがライナーノーツを手掛けている。全8曲収録。



フェイス・イン・ザ・ニュー・デイ リー・スミス

(© 2020 Lee Smith [Import CD])

2020年にリリースされたリー・スミスのサード・アルバムで現時点の最新アルバム。総勢11名のアーティストたちが参加し、全8曲を収録。



ダーン モンゴ・サンタマリア

(Vaya Records [Import CD])

リー・スミスがベースで参加したモンゴ・サンタマリアの1978年のアルバム。グラミー賞のベスト・ラテン・ジャズ・アルバム賞を受賞した名盤。